



# we maximize

いっさいの妥協を排し、すべての可能性を極限まで追求するマキシマイジング・スピリットをこの一台に込めた。いま、スペシャルティカーの大きな進化を告げる、新型コスモ2DOOR HARDTOP。

## 空気抗力係数 $[C_D=0.32]$ 。

エアロチューニングのたゆまぬ積み重ねが、理論や風洞実験の限界を超えた。

すぐれた空力特性は、ドライバビリティまでも向上させる。省エネルギーが時代の要請となって以来、空力特性も燃費改善の手段としてのみ考えられる傾向があった。もちろん、それは大きなポイントのひとつではある。しかし、 $[C_D=0.32]$ と、大はばに空力特性を向上できたいま、その数値の秘める可能性も、さらに大きく広がったといえるだろう。

例えば、 $C_D$ 値のパワーアップ効果。 $(C_D=$

$0.32)$ の実現は、 $[C_D=0.40]$ の車に較べ実に12~13ps(最高速)ものパワーアップ効果を発揮する。そしてこの効果は、新型コスモのドライバビリティを、すべての走行領域にわたって向上させている。

すぐれた空力特性は、高速時の操安性を向上させる。エアロダイミックスの視点で見ると、 $C_D$ 値に加え、 $C_{Lf}$ (フロント揚力係数)、 $C_{Lr}$ (リア揚力係数)の追求もまたなくては、すぐれた空力特性を誇ることはできない。 $(C_{Lf}=0.12)$ 、 $(C_{Lr}=0.09)$ という、世界でもトップレベルの $C_L$ 値を実現した新型コスモ。高速走行時の、横風にも影響されることのない、すぐれた安定性を発揮する。

すぐれた空力特性は、居住空間の拡大が前提となった。新型コスモのスタイリングは、居住空間をより広く実現する、レイアウト基礎設計思想が、決定の前提として存在した。空

力特性の向上に効果的なウエッジシェーブも、あくまでその前提をもとに実現したフォルムといえる。加えて、これも空力効果の高い極端にスラントしたショートノーズと、ショートデッキ。このスタイリングの常識を破る設計思想こそ、居住空間の拡大と、空力特性の向上という、相い反するテーマを両立し得た秘密といつてよいだろう。

すぐれた空力特性は、静粛性を向上させる。空気抵抗が少ないということは、空気がボディラインにそってスムーズに流れることを意味している。この効果は、当然ながら風切り音の低減にもつながる。また、空力特性のよい車は、高速走行時のエンジン負担が大はばに軽減されるためエンジン騒音も低い。例えば

磨き抜かれた走りが、新しい地平をひらく  
高度なメカニズムを徹底的に鍛えあげ、ポテンシャルで語る卓越した操安性を実現

パワフル&クイック・レスポンス。マツダ独創の2000エンジン。高性能と同時に省燃費、低公害という時代の要請を見事にクリア。その独創のメカニズムに対して、昭和55年度、日本機械学会賞を受賞した、マツダ安定燃焼エンジン。新型コスモには、その素性の良さをさらにチューンナップして搭載している。加えて、パワー&レスポンスにすぐれたEGI仕様も設定。新型コスモの華麗な走りを演出するにふさわしい、パワーユニットといえよう。



XG-X(サンルーフおよびアルミホイールはオプション)

